平成 31 年度（令和元年度）
全国学力・学習状況調査
学校の調査結果

令和元年 12 月

海老名市立門沢橋小学校

平成 31 年度（令和元年度）

全国学力・学習状況調査について

調査の目的

（1）義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
（2）学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
（3）そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年　原則として全児童生徒

調査内容

（1）教科に関する調査（国語，算数・数学，英語）

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

（2）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 （例）国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況　など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 （例）授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況　など

調査実施日

平成 31 年4月 18 日（木）

小学校 国語

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

・図表やグラフなどを用いた目的を捉える
・情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方や工夫を捉える
・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く
・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う
・文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く
・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む
・目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む
・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする
・目的に応じて、質問を工夫する
・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる
・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる

本校の調査結果

◆比較的できている点

〇学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができています。
〇報告文で示されている図表やグラフが、どのような目的で用いられているか、捉えることができています。

◆課題のある点

〇初めて取り組む報告文や説明文を読解することに時間がかかり、時間内に全ての問いに解答することに課題があります。
〇文字数の制限や文章から複数の事柄を抽出する等、条件に合わせ、自分の考えをまとめて書くことに課題があります。

今後の具体的な指導改善のポイント

〇国語の学習を中心に、引き続き習得した漢字を読んだり、書いたりする機会を増やしていきます。
〇報告文や説明文において、文章の要点を読み取る学習を充実させ、自分の考えを明確に書くことができるようにします。
〇各教科において、意図的に多様な文を読む機会を設け、読解力が向上するよう指導していきます。

小学校 算数

出題された調査問題の内容（出題の趣旨）

・台形について理解している
・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる
・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる
・棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる
・2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる
・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる
・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる
・示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる
・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる
・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる
・示された除法の式の意味を理解している
・目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる
・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる
・場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答え方を記述し、その結果から判断できる

本校の調査結果

◆比較的できている点

○棒グラフから、資料の特徴や傾向、比較量が基準量の何倍かを読み取ることができています。
○方眼紙に書かれている複数の図形から、台形を選び出すことができています。
○示された減法に関して、「計算のきまり」を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することができています。

◆課題のある点

○示された場面において、複数の数量から必要なものを選び、立式することに課題があります。
○示された小数を含む除法の式の意味を理解することに課題があります。

今後の具体的な指導改善のポイント

○家庭学習の習慣化を一層図りながら、基礎的・基本的学習内容の習得を、これからも低学年から積み上げていきます。
○問題におけるそれぞれの数量が何を意味するのか判断できるように、国語の学習と併せて日常の言葉を大切にした指導を積み重ねていきます。
○グラフや表等、資料から読み取る課題に取り組む学習を充実させていきます。

児童質問紙

学習について

◆本校のよかったところ

〇道徳の授業において、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる意識が高いといえます。

〇算数の授業で新しい問題に出合ったとき、解いてみたいという意識の高さがあります。

◆本校の課題と思われるところ

〇算数の授業内容はよく分かると回答した児童の割合は、全国平均より約10%下回っています。

〇平日において、学校の授業以外に１時間以上学習している児童の割合は、全国平均より約10%下回っています。

生活について

◆本校のよかったところ

〇「学校のきまりを守っているか」の質問に「当てはまる」と回答した児童の割合が全国平均より20%程上回っていて、規範意識の高さがうかがえます。

〇ほぼ全ての児童は、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。

◆本校の課題と思われるところ

〇今住んでいる地域の行事に参加している児童の割合が全国平均より10%以上、下回っています。

今後の具体的な取組について

〇今後も道徳の授業を充実させ、よりよく生きていくための基盤となる道徳性を養うようにしていきます。

〇各教科において、「もっと知りたい」「考えてみたい」と思える授業づくりに努めていきます。

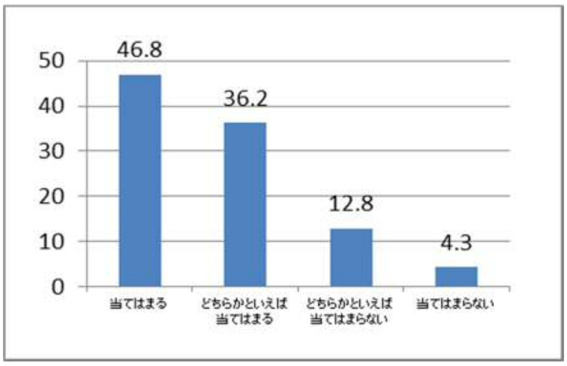
〇継続的に、音読や漢字、計算などの学習を家庭学習と連携させながら、基礎・基本の定着を図っていきます。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい4つの項目」をまとめました。ぜひ、取り組んでみてください。グラフは本校の児童質問紙の結果です。

1 家庭でも読書の時間を設けましょう。

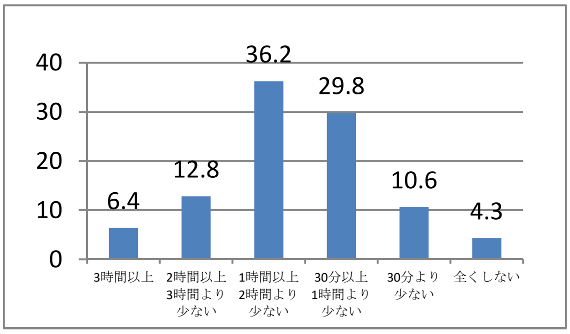
読書を継続的に行うことで、学力の基盤となる国語力を身に付けることができます。



読書は好きですか

2 家庭学習の習慣を身に付けましょう。

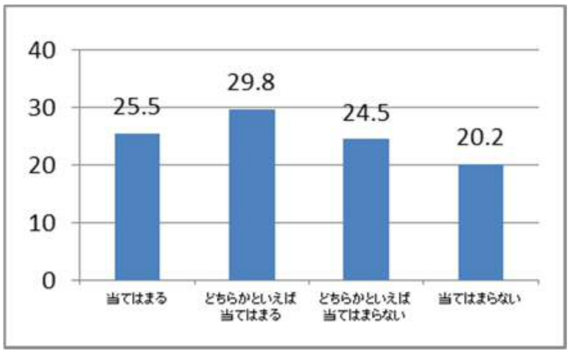
家庭学習は毎日続けることで習慣化されます。お子さんに合った学習時間を設定していきましょう。



学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

3 地域の行事に進んで参加しましょう。

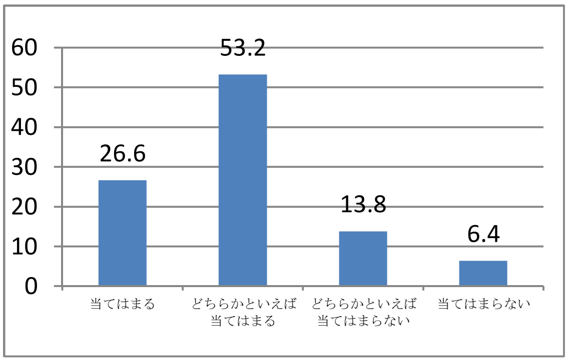
地域の様々な人々との世代を超えた交流を行うことで、学校だけでは経験できない豊かな人間形成を図っていくことができます。



今住んでいる地域の行事に参加していますか

4 子どものよさを認め、褒めましょう。

褒められることで自己肯定感が高まり、自分に自信をもつことができ、積極性が培われます。



自分には、よいところがあると思いますか

資料　学習・生活習慣と学力の関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
（教科に関する調査、児童生徒質問紙調査より）

【教科への関心・意欲・態度】
- 国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学 校 生 活】
- 学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- 先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】
- 朝食を毎日食べる
- 毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- 新聞を読んでいる
- テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】
- 学校の授業時間以外での学習時間が長い
- 自分で計画を立てて学習をする
- 学校の宿題、授業の予習・復習をする
- 読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】
- 家の人と学校での出来事について話をする
- 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- 学校のきまり、規則を守っている
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】
- 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

結果の公表にあたって

○公表は、他市との比較や学校間の比較による優劣を判断するものではありません。全国的な調査の結果として、分析・考察して、今後の市の施策や学校の指導の改善に生かすために公表するものです。

○公表することによって、保護者や市民の皆様に市や学校の子どもの状況を理解していただき、改善に向けての取組に協力していただくために公表するものです。

○「市の結果」、「他の学校の結果」は市のホームページでもご覧になれます。

海老名市　全国学力　検索

【市の結果についての問い合わせ先】
電話　046－235－4919
海老名市教育委員会教育支援課 指導係

門小っ子のすべり台　since 1975

renovated in 2019